



取材日：2014年1月20日（月）

取材先:トヨタ車体いなべ工場（いなべ市）

レポーター名：倉田 辻 丹羽



地域で生きていくために ～トヨタ車体いなべ工場と地域の関わり合い～

社会貢献活動の始まり

きっかけは2008年に起きたリーマン・ショックだった。完成車メーカーであるトヨタ車体はリーマン・ショックによる円高の影響により生産台数の減少を余儀なくされ、平日の生産にも影響を及ぼすことがあった。そこで、余力の時間活用として、それまでの社会貢献活動に対し組織を充実して取り組む様になった。

現在行っている活動

現在行っている活動は自動車がCO₂を排出することからCO₂の削減を目指し電気自動車やハイブリッドカーの開発という形で社会貢献活動に力を注ぐ一方で植林、清掃、車イス利用者の送迎など活動は多岐にわたる。なかでももっとも力を入れているのは「地域と共生、自然と調和する工場づくり」だ。トヨタ車体いなべ工場周辺の森林に5年で500本を目標に毎年100本の実のなる木を植えている。これは工場周辺の森林で生活するサル・イノシシ・シカといった野生動物が食べ物を探しに山から降りてきて人に危害を加えたり、車とぶつかって大きな事故を起こしたりしないために、冬でも実のなる木を植樹することにより人と生きものの共生を図ろうと取り組んでいる。

また「できる時に、できる事を、できるだけ。。。」という言葉をキーワードにして、社員が自主的に社会貢献活動を行うことができている。トヨタ車体では社員の方々が積極的に社会貢献活動に参加できるように、ボランティア・エコポイント制という独自の「しくみ」を採用している。ボランティア・エコポイント制とは社員や家族が、気軽に自主的にボランティア活動やエコ活動に参加できるよう、活動内容に応じてポイントが付与される制度であり、活動によって貯めた

ポイントは、会社指定の環境商品と交換したり、希望する分野へ寄付したりすることができる。さらに、ポイントの高い社員は表彰され、記念品を贈与される。このポイント制度を取り入れることで、一回の活動が社会や環境に良い行動をしていると社員に感じてもらうことができ、社会貢献活動に対する意欲を高めることができている。実際に、表彰される人数は年々増え続けており、社内でのボランティア意識の向上が実現できている。

現在に至るまでの苦勞・問題点

社会貢献活動を始めた当初、社員は「なぜ勤務時間外に地域・社会貢献活動をしなければならないのか」という疑問を持っていた。しかし、実際に参加してみると楽しく・やりがいを感じ、次のボランティア活動にも参加するようになり参加者も徐々に増えていったようだ。しかし、一方で参加者が固定しつつあるという問題点がある。そのためにも、「横のつながり」を大切に、職場間での声掛けを進めている。担当の方からは、社員が社会貢献活動に自主的に参加してもらえるようになるまでの「人づくり」に苦勞したと話されていた。

またもう一つの課題点として、トヨタ車体いなべ工場では、地域ニーズに合った取り組み内容や、地域と協働で取り組む場が先進企業と比較するとまだまだ少なく、今後はこれらの課題に対してどのように地域ニーズを聞き、地域と協働した「場づくり」を充実していくかがキーポイントになるだろう。

今後の展望

以上で見てきたように、トヨタ車体いなべ工場では、「地域と共生、自然と調和する工場づくり」を目指し、様々な社会貢献活動を行っている。しかし、このような活動はまだ開始されたばかりで、今後更に拡大していきたいという意志を感じ取ることができた。

そこで、社内と同時に社外の地域の方々にもより広く社会貢献活動について理解して頂き、ひいては、自社についても知ってもらうということにも重点を置いている。そのためにも、より多くの地域の方々に参加できる・地域の方々との協力関係を築くといったようなきっかけづくり、そしてその企画を具体的にどうすればより良くなっていくかといったことを模索している最中であるといったお話も伺えた。

このように、社内にも社外にも社会貢献活動を浸透させていく努力を組織的に力を入れている事で、今後の活動の拡大にもぜひ注目して頂きたいと思う。